

澀谷

〔新編江戸志<sup>七上</sup>〕澀谷

往古は矢盛の庄と云より龍見左京貞重入道此所を領す、家系に云、貞重子龍見平次左衛門重明武州澀谷に住す、元弘三年癸酉三月十六日、武州入間郡の合戦に討死すとなり、

〔御府内備考<sup>七十三</sup>〕澀谷は廣き地にて、今上中下の三村に分れ、又上中下豊澤三村も、元は澀谷の内なりしを、元祿の頃別村と成りし處なり、よりにて後人附會して、東鑑治承五年八月二十八日辛未の條に、澀谷庄司重國の次男、無貳の忠節を竭の間、澀谷下郷を知行すべしとあるを、當所の如く傳へたるは謬なり、相模國高坐郡に、澀谷庄の名今も残りて、悉かもそのかゝる處甚廣ければ、重國等の住居せしは、彼地たりし事明し、殊に東鑑文應二年五月十三日、佐々木壹岐前司泰綱澀谷太郎左衛門尉武重と口論に及びし條に、先祖重國は、誠に相模國大名の内なり云々とも見えたり、當所はもしくは、彼が氏族の者など住せし地にて、後年村名となりしは、知べからず、

〔南向茶話〕問曰、青山赤坂邊の儀は如何、承度候、答曰、赤坂之號<sup>略</sup>、中愚考に、赤坂之號、赤土の地なれば稱する成べし、濃州赤坂も、後に山ありて、山の土赤き事朱のごとし、三州赤坂も、山中赤土の所也、

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

赤坂

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き

〔御府内備考<sup>六十七</sup>〕赤坂は武藏風土記に、荏原郡赤坂庄、公穀三百六十九束、三毛田假粟貳百貳拾三丸出、黄麥稗等、又貢鷄鶩等と載たり、荏原郡と書るは謬にや、今赤坂と稱する處は、全く豊島郡に屬し、古名赤坂庄、貝塚領壹ツ木<sup>或は人繼</sup>と號せし由云傳ふ<sup>略</sup>、中紫一本に云、赤根山赤坂今の紀伊家の中屋鋪をいふと、又加々侯遠清が江砂餘礫には、赤坂の號は、御入國以後松平安藝守下屋敷の地、山赤土なる故に、赤阪といふと記し、江戸圖説には、紀伊國坂を、古へ赤坂といひ、紀伊侯御中館の地を、元赤根山といふ、茜を多く作りし地にて、茜山なるを轉じて赤坂といふとも記せり、未だその正しき説をきかず、按に一ツ木は、古へ上一ツ木村、下一ツ木村と別ち稱して、廣き